

| | | | | | | |
|---|--|---|-----|-----|-----|----------|
| 〔科目名〕 <p style="text-align: center;">監査論 I</p> | 〔単位数〕 <p style="text-align: center;">2 単位</p> | 〔科目区分〕 <p style="text-align: center;">専門科目 展開科目</p> | | | | |
| 〔担当者〕 <p style="text-align: center;">紫関 正博 Shiseki Masahiro</p> | 〔オフィス・アワー〕 <p>時間:授業の開始時に提示 場所:研究室(512)</p> | 〔授業の方法〕 <p style="text-align: center;">講義</p> | | | | |
| 〔科目の概要〕 <p>企業の外部に会計情報を提供する企業の経営者は、投資家、株主等をはじめとする利害関係者に、企業の財務状況や経営成績を報告する。その際、企業は利害関係者に向けて、会計法規や会計基準に基づいて貸借対照表や損益計算書などの財務諸表を作成および公表している。このとき、企業の作成した財務諸表が適正であるのかを監査が保証することによって、利害関係者は初めて信頼できる企業の財務情報を入手することができる。このように、監査(通常、「財務諸表監査」という)は、企業が作成した財務諸表上の用語と数値(金額)が正しいものであるのかをチェックし、投資家や株主等をはじめとする財務諸表の利用者を保護するために証券市場の信頼を確立する社会制度となっている。しかしながら、こうした社会制度としての監査があるにもかかわらず、なぜ会計不正はなくなるのだろうか。</p> <p>「監査論 I」では、監査の理論と制度的側面を中心に、監査目的と監査概念、(財務諸表)監査制度を学ぶ。(財務諸表)監査制度の單元では、日本の法定監査制度(会社法監査制度、金融商品取引法監査制度)と監査規範としての監査基準を主なテーマとして取り上げる。講義では、会計不正の事例も取り上げ、監査の課題も考えながら、現代の社会における財務諸表監査の役割を学習する。</p> | | | | | | |
| 〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <ul style="list-style-type: none"> ・他の科目との関連付け <p>監査の対象は財務情報であることから、この科目は、他の会計関連科目(会計学基礎論、財務会計論 I・II、財務分析 I・II、財務管理など)の学習を再認識し、さらには理解を深めることにもつながる。</p> ・学ぶ必要性と学ぶことの意義 <p>会計はビジネスの言語として、いまやビジネスパーソンに必須の知識となっている。したがって、(財務諸表)監査制度を理解することは、会計文書を公表することが社会的にどのような意義を持っているのかを考える上で有益である。さらに、近年では、内部統制が制度化され、ビジネスの現場に監査が登場する場面も増えている。このことから、監査法人で働く会計専門職業人のみならず、財務諸表を作成する側の企業のビジネスパーソンも、会計と監査の関係を十分に理解する必要があることが窺える。</p> | | | | | | |
| 〔科目の到達目標〕 <p>(中間目標) 監査の基礎的な理論と(財務諸表)監査の仕組みを習得する。 (最終目標) 日本の法定監査制度を中心とした監査制度と監査の歴史的な展開を学習し、現代の社会における財務諸表監査の役割に対する理解を深め、さらには監査の課題を考える。</p> | | | | | | |
| 〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕 | | | | | | |
| 学部 | | | | 学科 | | |
| DP1 ○ | DP2 | DP3 | DP4 | DP1 | DP2 | DP3 ○ |
| 〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>声聞き取りづらいという回答が複数あったので、説明の仕方や話し方の工夫に努め、マイクを調整し、しっかりと音声を伝え、聞こえやすくするように心掛けます。また、スライドの提示についても、配慮します。</p> | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|----------|-----|------|--|--------------|--|------|--|--------------|--|------|--|--------------|--|------|--|----------|--|------|
| <p>〔教科書〕 伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論(九訂版)』, 同文館出版, 2022 年。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>〔指定図書〕 山浦久司 著『監査論テキスト[第 9 版]』, 中央経済社, 2024 年。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>〔参考書〕 長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門(第 6 版)』, 中央経済社, 2024 年。 蟹江 章・井上善弘・栗濱竜一郎 編著『スタンダードテキスト監査論(第 7 版)』, 中央経済社, 2024 年。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>〔前提科目〕 前提科目はなし。「会計学基礎論」, 「財務会計論 I・II」(できれば他の会計関連科目も)を履修していることが望ましい。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業の参加度を確認するため, 3~5 回程度, 小課題を実施する。また, 期末試験の他に, 小テストを行う。<u>小テストの実施日は, 授業内および掲示で伝達するので, 注意すること。</u> ・評価は, 小課題(10%), 小テスト(30%), 期末試験(60%)による。なお, 直近のビジネス会計検定試験の成果(合否)を, 若干成績に加味して評価します。</p> <table border="0" style="margin-left: 40px;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">(評価)</td> <td style="padding-right: 40px;">A: 80%以上</td> <td style="padding-right: 40px;">GPA</td> <td>4.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>B: 70%~80%未満</td> <td></td> <td>3.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C: 60%~70%未満</td> <td></td> <td>2.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>D: 50%~60%未満</td> <td></td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td></td> <td>F: 50%未満</td> <td></td> <td>0.00</td> </tr> </table> | | (評価) | A: 80%以上 | GPA | 4.00 | | B: 70%~80%未満 | | 3.00 | | C: 60%~70%未満 | | 2.00 | | D: 50%~60%未満 | | 1.00 | | F: 50%未満 | | 0.00 |
| (評価) | A: 80%以上 | GPA | 4.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B: 70%~80%未満 | | 3.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | C: 60%~70%未満 | | 2.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | D: 50%~60%未満 | | 1.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | F: 50%未満 | | 0.00 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・初回の授業の際に, 評価方法の詳細を説明するので, <u>必ず出席すること。</u> ・受講生の学習理解度, 授業の状況などにより, 授業スケジュールに変更が生じる場合もあり得ます。 ・「監査論 I」の講義では, 受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持ち, 会計と監査がどのような関係にあるのかを考えてほしい。 ・授業では, 監査固有の専門用語が登場するので, 覚えることも多い。理解したことを定着させるためにも, 予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には教科書, 講義レジュメを読み, 授業に出席すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>〔実務経歴〕 該当なし</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業スケジュール</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>第 1 回</p> | <p>テーマ(何を学ぶか): 監査とは何か① 内 容: ガイダンス, 監査の定義 教科書 第1章, 講義レジュメ</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>第 2 回</p> | <p>テーマ(何を学ぶか): 監査とは何か② 内 容: 財務諸表監査の意義と監査の生成要因 教科書 第1章, 講義レジュメ</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>第 3 回</p> | <p>テーマ(何を学ぶか): 監査のフレームワーク① 内 容: 監査の種類 教科書 第1章, 講義レジュメ</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|------|---|
| 第4回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク②</p> <p>内 容:監査人の独立性</p> <p>教科書 第1章, 講義レジュメ</p> |
| 第5回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査のフレームワーク③</p> <p>内 容:監査の経済的機能</p> <p>教科書 第1章, 講義レジュメ</p> |
| 第6回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査制度①</p> <p>内 容:イギリスとアメリカ・ドイツにおける監査の生成と展開</p> <p>教科書 第2章, 講義レジュメ</p> |
| 第7回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査制度②</p> <p>内 容:日本の会社法監査(1) 会社法監査制度の生成と展開</p> <p>教科書 第2章, 講義レジュメ</p> |
| 第8回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査制度③</p> <p>内 容:日本の会社法監査(2) 会社法監査制度の意義と内容</p> <p>教科書 第2章, 講義レジュメ</p> |
| 第9回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査制度④</p> <p>内 容:日本の金融商品取引法監査(1) 金融商品取引法監査制度の生成と展開</p> <p>教科書 第2章, 講義レジュメ</p> |
| 第10回 | <p>(何を学ぶか):監査制度⑤</p> <p>内 容:日本の金融商品取引法監査(2) 金融商品取引法監査制度の意義と内容</p> <p>教科書 第2章, 講義レジュメ</p> |
| 第11回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準①</p> <p>内 容:監査規範の意義, アメリカの監査基準の生成と展開</p> <p>教科書 第3章, 講義レジュメ</p> |
| 第12回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準②</p> <p>内 容:日本の監査基準(1) 監査基準の生成と展開</p> <p>教科書 第3章, 講義レジュメ</p> |
| 第13回 | <p>テーマ(何を学ぶか):監査規範と監査基準③</p> <p>内 容:日本の監査基準(2) 監査基準の改訂と新設</p> <p>教科書 第3章, 講義レジュメ</p> |
| 第14回 | <p>テーマ(何を学ぶか):会計監査の事例</p> <p>内 容:会計不正事件のケーススタディ</p> <p>講義レジュメ</p> |
| 第15回 | <p>テーマ(何を学ぶか):総復習</p> <p>内 容:講義内容の総括</p> <p>教科書, 講義レジュメ</p> |
| 試験 | 筆記試験の実施 |